

## ライオンのよいいちにち

あべ  
ひろし  
弘士

ライオンの　とうさんが　こどもたちと　さんぽに　でかけた。

しばらくいくと、くさむらから　イボイノシシが　こえを　かけた。

「あーら　ライオンさん、どちらへ？」

「さんぽで　ごごる」

「おさんつれて　うらやましいわ。

うちの　おとうちゃん、こどもたちなんて　ほったらかしよ  
でも、

（わしは、こどもと　さんぽするのが　すきなだけだ。

よけいな　おせわなのだ）と　ライオンは　おもう。

また　しばらく　さんぽを　つづけた。

すると　木のうえから　こえがした。

「よっ、ライオンの　だんな　どちらへ？」と　ヒョウが　いった。

「んっ、さんぽじゃ」

「こども　たくさん　ひきつれて。こもりかい？」

「まあな」

でも、

(わしは、こうしているのが いいのだ)

と ライオンは おもう。

(お話アカデミー 小学1～3年生用 課題)